

# 顕彰状

出井伸之氏は、1937年早稲田大学教授出井盛之氏の次男として東京都世田谷区に生まれ、早稲田大学高等学院を経、1960年に早稲田大学第一政治経済学部経済学科を卒業し、ソニー株式会社に入社した。出井氏は、外国部に配属され、1968年フランスに赴任しソニー・フランスの設立に携わった。その後、音響事業本部オーディオ事業部長、ホームビデオ事業本部長等を歴任、89年取締役、94年常務取締役、95年代表取締役社長に就任し、現在は、代表取締役会長兼CEO（Chief Executive Officer）として、同社経営の最高責任を担っている。

ソニーは、1946年に故井深大氏（本学校賓・名誉博士）によって設立された東京通信工業株式会社を前身とし、我が国を代表する世界的電機メーカーとして、戦後の日本経済を牽引してきた。

1995年の社長就任以来出井氏は、エレクトロニクス、ゲーム、音楽、映画、保険、金融等の事業領域を持つグローバル企業へと成長したソニーを、工業化社会から知識情報化社会への移行という時代の趨勢を見据え、『Re-Generation（リ・ジェネレーション）』や『Digital Dream Kids（デジタル・ドリーム・キッズ）』といった新たなキーワードのもとにリードしてきた。出井氏は、知識情報化社会におけるソニーの経営に不可欠な要素としてユニークさ、クオリティ、スピード、コストを掲げ、業界他社に先駆ける形で共通の経営指標としてシックスシグマやEVA（経済付加価値）を導入し、着実な成果を出してきた。また氏は執行役員制度を発案、導入し、かつ取締役会の改革にも取り組み、経営の監督と執行責任の分離を明確化させ、それにより迅速な意思決定を実現した。これらの改革はその後、変革期における有効な企業統治のモデルとして多くの日本企業に採用され、現在に至っている。

このように出井氏は、伝統的な大企業が生存競争に苦闘する中で、逸早く企業改革に着手し、誠に目覚ましい成果を収めている。世界初のエンタテインメント・ロボットや高性能ゲーム機の開発、近くはインターネット専門銀行の設立等に象徴される新機軸を積極的に打ち出し、今やソニーはIT時代の最先端企業と見做されるに至った。革新的な事業の成功は、出井氏の的確な時代認識と経営戦略に裏付けられたトップ主導による大胆な自己変革にあり、氏こそ自らの思考により決断する真の意味の経営者と言えよう。

また、出井氏は「組織は人なり」を単に理想でなく実践で体現する稀有の指導者でもある。後進の育成を自身最大の責務と考え、人事制度を改め、次世代のビジネスリーダーの発掘・育成・確保を図るとともに、社内研修制度「ソニー・ユニバーシティ」を設置し、出井氏ら経営陣も自ら教壇に立ち、ソニー・スピリットの更なる継承に取り組み、かつ内外の一流経営者を招いて若手社員と直接触れ合う場を作っている。

その卓越した人格・識見と実行力により、社外においても、経済団体連合会新産業・新事業委員会共同委員長、日本銀行参与、米国ゼネラル・モーターズ社外取締役など多くの公職および民間の要職を歴任している。殊にIT戦略会議議長として、高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（IT基本法）の成立に尽力し、現在も高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部員として執掌中のことは周知の通りである。早稲田大学においても、評議員および商議員会副会長に加え、創立125周年記念事業募金委員会副委員長を務め、本学の発展に多大な貢献を果たしている。

国内外での評価も極めて高く、これまで財界・経営者賞、経済界大賞、仏国レジオン・ドヌール勲章、財界賞等の数々を受賞したほか、米国ビジネス・ウィーク誌からは「年間最優秀経営者25人」に2度にわたり選出されている。

ここに早稲田大学総長・理事・監事・評議員ならびに全学の教職員は一致して

出井伸之氏に

名誉博士（Doctor of Laws）の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

*(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)*

2002年4月1日

早稲田大学